

調整委員会 四者協議 議事録

○日 時：2019年11月1日（金）12時00分から13時00分まで

○場 所：晴海トリトンオフィスY棟2階会議室「Y2A」

○出席者：ジョン・コーツ 第32回オリンピック競技大会（2020／東京）調整委員会委員長

森 喜朗 東京2020組織委員会会長

小池 百合子 東京都知事

橋本 聖子 東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣

<コーツ委員長>

小池知事、森会長、橋本大臣、東京都の皆さん、特に歓迎をしたいのはメディアの皆様です。

知事、大臣、森会長、今週の始めに申し上げた四者協議の提案を受けていただき、ありがとうございます。

議論すべきは、マラソンと競歩についてです。このテーマについては詳しくお話しします。

四者協議が実現し、嬉しく思います。

最初に申し上げますが、昨日、実務協議の場が設けられ、四者全ての代表が出席しました。

そして、4点の合意が協議から得られました。

昨日の協議で合意されたポイントですが、第1点目は「マラソンと競歩の開催について、会場変更の権限はIOCにあること」です。

第2点目は「マラソン・競歩の会場が、札幌に変更された際に発生する新たな経費は、東京都に負担させない」こと。

第3点目は「既に東京都、組織委員会が支出したマラソン・競歩に関連する経費については精査、検証のうえで、東京都において別の目的に活用できないものについては、東京都に負担させない」こと。昨日、IPCの意向として「会場を札幌に変更する見込みはない」と主張されました。まだ議論は続いておりますが、そういった内容がIPCから出ました。

第4点目は「マラソン・競歩以外の競技について、今後会場を変更しないこと」。

以上の4点であります。

昨日、この4点については合意したので、議論は必要ないと思います。

ただ、四者の意向は聞きたいと考えております。皆さん、議論のサマリーを申し上げましたが、小池知事、これで良いでしょうか？

確認のためだけに伺っています。

<小池知事>

それでは今、スピーチしてもいいですか？

それともYESとだけ言えばいいですか？

<コーツ委員長>

スピーチをしたければどうぞ。これは昨日の協議のみについてですので、詳細は後でお話ししたいと思います。申し上げたいのは、昨日、4点で合意したということです。私は一点一点、詳細

にわたって議論しようといっているわけではありません。

<小池知事>

コート委員長、ありがとうございます。4点のまとめがありました。

10月30日から、調整委員会でIOC、組織委員会、東京都で多くの点について議論させていただきました。

マラソン・競歩にあたっては、「東京2020オリンピック・パラリンピック開催都市である東京都で開催を」と主張させていただき、議論もしました。今回のIOCの会場変更についての突然の決定に関しては、都民・国民が驚き、失望を引き起こしているという認識も、IOC・組織委員会・東京都の三者で共有させていただきました。

先ほどの内容。コート委員長の発言についての確認です。

第1に、会場変更の権限はIOCにあるということ。

第2に、マラソン・競歩の会場が札幌に変更された場合、発生する新たな経費は東京都に負担させないこと。

第3に、既に東京都・組織委員会が支出したマラソン・競歩に関する経費は、精査・検証した上で、東京都において別の目的で活用できないものは東京都に負担させないこと。

第4に、マラソン・競歩以外の競技については、今後会場を変更しないこと。

この4点かと思います。IPCについて触れられた点は承知しました。

まだ、IOCからの説明については、足りない部分や納得いかない部分がありますが、今申し上げた部分についての意見が一致し、三者それぞれで確認できたことは重要であると認識しています。

現在も、マラソン・競歩を東京で開催することがベストだという考えは変わっていません。

これらの点をふまえ、開催都市である東京都として大会を成功させる体制を構築する重要性に鑑み、IOCの決定に同意することはできませんが、最終決定権を有するIOCが下した決定を妨げることはしないということが、東京都としての決断でございます。

あえて申し上げるならば、「合意なき決定」でございます。

<コート委員長>

ありがとうございました。橋本大臣、この内容でよろしいでしょうか？

<橋本大臣>

協議した上でこのように決定されることについて、政府は了承させていただきたいと思います。

<コート委員長>

森会長、どうぞ。

<森会長>

1日かかって大変な議論を続けていただいた結果を、コート委員長から発表された件、大変ご苦勞であったと思います。昨晩は意義ある夕食会でしたが、その間コート委員長は1度もお食事することなく、自席で電話やメールで、おそらくバツハさんとの連絡とっておられたと思います。ご苦勞だっ

たと敬意を表したいと思います。

武藤総長と中村GDOが、夜の晩餐会には出られないことになり、その他東京都の代表の方にもIOCの方にもご苦勞かけました。今の4点にまとめていただいたことに了承したいと思います。

<コーツ委員長>

IOCを代表して確認してもらうために、ゲームズディレクターにこれらの点について確認してほしいと思います。

<デュビ>

今の4点は生産的な議論をよくまとめていると思います。昨日もありがとうございました。

<コーツ委員長>

それでは、四者それぞれにこの点について、一般論について発言していただきたいと思います。

ただ、知事、本件は、一番は都に対して、また都民の皆様に対して大きな影響を与えたので、やはりまずは知事の方からご発言いただいて、参加者全員に対して、以前私に対して表明してくださったこと、つまり驚きであって落胆であったということを表明していただきたいと思います。

また、知事に、バッハ会長から昨晚提案を受理されたと思います。ですから、知事の方からどういう提案があったかっていうことを説明していただくのが最もふさわしいと思います。

<小池知事>

これまで調整委員会で法的な問題、財政的な問題、技術的な暑さ対策などについて議論が行われてまいりました。

そして、今4つの項目について、合意も整理もできた、というわけではありますが、まだどうしても解決しえないもの、心に残っているものというのは、盛り上がってきたマラソンに対しての都民の期待や、そして準備に心血を注いでこられました沿道や関係者の方々の想いでございます。

こうした都民の皆様の想いに答えられるか、ということでこれまでずっと声を上げ続けてきました。その想いを率直にIOCの皆さんに投げかけたところでございます。コーツさん、バッハ会長にもその旨をお伝えいただき、ありがとうございます。

そうしたところ、今朝、IOCのバッハ会長から直接メールをいただきました。内容は、IOCと東京都が一緒になって東京のオリンピックマラソンコースを活用し、2020オリンピック・パラリンピックの大会の後に、オリンピックセレブレーションマラソンを開催したらどうかという考えでございます。

是非とも、IOCから都民の皆さんに、誠意ある対応を示す必要があると、このようにリクエストしてまいりました。それに対してバッハ会長から今朝、真摯なメッセージを頂戴したということでございます。

オリンピックセレブレーションマラソン、このようにバッハ会長のメールにはあるわけですが、もちろん具体的な企画についてはこれからIOCとの間で検討をしていきたいと考えております。

このように、突然のマラソン・競歩の会場変更の件については、東京都民、多くの国民の皆様方も大変びっくりしたというのも改めて申し上げたいと思いますが、それについての議論を、調整委員会で行っていただきました。

今改めて強く感じるのは、来年の2020大会を成功させるためには、IOC・組織委員会・東京都の三者が信頼しあって、今回の事態を十分に踏まえて、成功に向けて前へ進むことです。

このようなバッハ会長からのレターを頂戴し、都民の皆様方とこのマラソン・競歩、この想いを、これをかなえる機会を設ける、その準備をしていきたいと思っております。

これからも協力をよろしくお願い申し上げます。

<コーツ委員長>

大きな心を持って、バッハ会長の提案を受け止めてくださり、ありがとうございます。

バッハ会長が知事に対して伝えた思いについて、改めてここで強調します。

それは、「都民の皆様は、是非ご理解いただきたい」ということです。バッハ会長は、都民がIOCの決定に対していかに落胆しているかということを確認して、こう述べています。

都民の方々が、あんなに熱心に準備を進めていたので、落胆するということはよくわかります。

バッハ会長は、都民の皆様は理解してほしいとお願いしています。

IOCとしては、アスリートの健康を守るためにやらざるを得ない決定でした。IOCにとっての最優先事項は、アスリートの健康であるということです。

また、知事、都庁、都民の皆様は、もう一つご理解いただきたいことがあります。これほどまでに短期間で決定を下したことについてです。それは、アスリートが、自らの体を順応させた練習を行う時間を整えなければならないからです。彼は、これは非常に良い機会だと主張しています。

皆さんの会場準備の作業を利用できると考えており、それを高く評価している故にこの提案をしたということ。つまり、この提案をすることで、都民の皆様と東京都に対して、祝福する機会を与えたい、終了後にアニバーサリーとしてマラソンという形で祝福していただきたいということです。

今、知事からのご説明のとおり、知事も高く評価してくださったようです。

他の方たちにも一巡して伺いたいところです。まずは、森会長に伺います。

<森会長>

今、都知事のご報告を伺いまして、良かったと率直に思っています。私どもも、コーツ委員長からこのお話を聞いた時に、正直言って知事もおっしゃってましたが、仰天でした。

どう対応するかということで、事務総長と誰も交えずに相談しました。東京都に話をしたらどうなるだろうか。おそらく大混乱になってしまうだろう。東京都と組織委員会、あるいは都とIOCの関係も本当に悪化するのではないか等、色々考えました。

しかし、こうして調整委員会がこのタイミングであったということ、そしてそこにこの調整会議を作ったということ、これは大変良い考え方だと思っています。

冒頭で申し上げたとおり、コーツ委員長は、ディナーの間も、絶えずバッハ会長と連絡を取っておられたし、痛い足を引きずって何度も知事の席に行き、知事と色々耳打ちをしたり、お話をしておられました。そういう中でだんだん話し合いが成熟していくんだということを好ましく拝見していました。

組織委員会ができてから6年、最初から色々な問題がごたごたしましたが、ひとつひとつみんなで努力して積み上げて解決してきました。しかし、最後まで「これでいい」という結論が出ないのは、輸送問題と暑さ対策です。輸送問題は人とモノの問題なので工夫すれば解決できると思います。暑さ

だけは自然相手でありますから、世界の気象状況を見ても、特に今年の日本の気象条件をみても、何が起きるかわからない。そういう状況の中でこういった提案をIOCからなされたということは十分理解できることであり、組織委員会としては良い設備と環境を整えてアスリートの皆さんにがんばっていただく、プレーしていただくのは我々の仕事でありますから、そういう意味でIOCの考え方を受けて、そしてそれを東京都が理解してくれるかということが芯のところでございます。

知事も色々ご苦勞されたと思いますが、大英断されたこと、合意なき決断という言葉はヨーロッパで流行った言葉でありますけども、そういう言葉が当て嵌まるのかどうかは別としても、大変な決断をされたことに対しては、私は心から敬意を表したいと思います。

また一方、知事からもコーツさんからもお話がありましたように、東京都民が一番楽しみにしていたマラソン、そして沿道で応援したいと思っておられる全国のファンの皆さん、そういう皆さんのお気持ちもしっかり受け止めて、こうしたご判断いただきましたことも、これまた心からこれに対して感謝申し上げたいと思います。

バッハ会長、そして都知事の思いをよく理解をされた提案だろうと理解していますので、しっかりこの後を受け止めて引き続き努力したいと思います。知事は、「ワンチーム」ということを仰ってました。私はラグビーにも関係していますが、正にワンチームでフィフティは頑張ったと思います。どうぞもう一度、みんなでこのワンチームを構成して、来年のオリンピックを迎えたいと思っています。以上です。

<コーツ委員長>

森会長、ありがとうございます。橋本大臣にご発言いただく前に、JOC会長であり、東京2020組織委員会の副会長であり、ご自身もオリンピックで金メダリストである山下会長に、ご意見を伺いたいと思います。日本のアスリートのことも含めてです。

<山下会長>

ありがとうございます。

この問題は、四者で真剣に議論されました。この結果を、我々も厳粛に受け止めたいと思います。

そして決まったことに対して、札幌開催の成功に向けて、組織委員会の副会長としても勿論ですが、JOC会長としてできること、これを関係各位と連携、協力しながら、全力、最善を尽くしたいと思えます。

それから、準備されてこられた東京都、それから都民の方の気持ち、これは我々も理解できます。落胆されている都民の皆さんに対して、我々にできることを真剣に考えていきたいと思えます。

それから、決まった後ですが、世界のアスリートにとって、やはりコースや開始時間がどうなるのかが、そういう所まだまだあると思えますが、これらの問題も真剣な議論をし、できるだけ早く決めていただく。そのことを、アスリートの視点からお願いいたします。

皆さんの熱心なご議論に、心から感謝御礼申し上げます。

<コーツ委員長>

山下会長、どうもありがとうございます。

橋本大臣はただの大臣ではなく、オリンピックに出場したオリンピックです。

スピードスケート、自転車競技者として出場されました。

そして、森会長が聖子ファンクラブの会長だということです。橋本大臣のご見解、我々にとって非常に重要でありまして、やはり国・政府を代表して彼女が話してくださるご意見はいつも我々に安心を与えてくださいます。

<橋本大臣>

ありがとうございます。コーチ委員長には、元アスリートの視点からも意見をということで、本当に有難く思います。

一連の大きな課題の解決のために、短期間で議論を重ねてこられたことは、大変なご苦勞であったと思います。改めて、IOC・東京都・組織委員会の関係者の皆様方のご尽力に、心から敬意と感謝を申し上げたいと思います。

本日このような結論が得られたことを、政府としてもしっかりと受け止めて全力でお手伝いをさせて頂きたいと決意を新たにしています。

先程、山下会長からもアスリートとしての視点からのご発言をいただきまして、私自身も大変嬉しく思っています。

今回の決断は、アスリートの健康面での配慮も考える中での決断です。アスリートファーストの視点からこういったことになったのはありがたいことです。

ただ一方で「東京で走ってみたかった」という風に、6年間東京のコースをイメージしてトレーニングを重ねてきた選手を、アスリートの気持ちを思いますと、やはり色々な複雑なことがあるんだろうと思います。突然の変更によって戸惑いもあるかと思いますが、山下会長のお力もいただきながら、選手が心を切り替えて東京大会の成功に向けて頑張っていたと、その姿こそが、競技を観る方の心を掴み、感動を呼び、そして支える人の喜びに繋がると思います。今一度一体感を持って、東京大会が開催されて良かったと思ってもらえる大会にすることが重要であると思います。

また、小池知事からもありました、東京で開催するというので、このマラソンと競歩を心待ちにしていた都民の皆様、そしてどのように自分たちもお手伝いができるかと期待を持ちながら準備に取り組んでこられた小さなお子様から始め、児童生徒の皆様方、そういった方々が新たな気持ちをもってワンチームになって、東京大会に臨むためのあらゆる面における配慮も考えていただいているということでもありますので、政府としてもこの三者協議で、今私ども政府が入って四者協議とさせていただきますが、この決定を重く受け止め、素晴らしい東京大会になることをしっかりとバックアップさせていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。

<小池知事>

加えたいポイントがあります。森会長も暑さに対しての点を述べられました。これまで世界銀行も、気候変動に関する自然災害や温暖化について、毎年予測をかなり前倒しでウォーニングをするような中身を発表しております。

そのことを考えますと、オリンピックの開催の前提条件が7月、8月ということは、北半球の都市のどこをとっても、これからも過酷な状況になるということを言わざるを得ません。

この件について、やはりしっかりと直面する問題に、我々自身が直面しなければならないのではないか、ぜひこの点について、IOC、IPC、アスリートファーストということであるならば、その観

点からもよく考えていく必要がある、このことを最後に付け加えさせていただきたいと思います。

<コーツ委員長>

IOCの総会で、東京の招致が決まった総会で、我々はオリンピック憲章を変えました。

それにより、場合によっては、全ての競技が1つの開催都市ではできないかもしれないということも認識しました。そういうことになった時には、7、8月の開催とは別のこととして、同じ大会でも違った開催都市でもやってもらうことが可能になるという風にしました。

それによって強化されたと思います。IOCアジェンダ2020、New Norm、委員会においても作業が進んだと思います。将来の開催都市契約を結んだところにもフレキシビリティが与えられるということです。

冬季大会でも、例えば複数国でイベントを催すことが可能になりつつあります。我々は、これからも普遍的な大会にしなければならないと知事がおっしゃった点はよくわかります。そして、今ここで明確になったと思います。この提案は受け入れられたということだと思います。バッハ会長には私から報告します。彼も、謝意を必ず表明すると思います。特に小池知事に対しては「ありがとう」と言うと思います。それから橋本大臣にも、森会長にも。この非常に難しい問題にどう取り組まれたかということに、感謝をするだろうと思います。

残っている項目としては、確認事項になります。次のステップということで、IOCはこれからも札幌移転にかかる費用負担について、また競技実行にかかる経費について、組織委員会、地元自治体の札幌市、北海道庁と協議を行わなければなりません。

それから、東京都がどれくらいのコストを使ったかということ进行分析して検証、精査しなければならないと認識しています。

ですから次の段階ということでは、ある程度予告されていることですが、国際陸連も巻き込んでいかなければなりません。例えば、札幌のマラソンコースを承認しなければならないという作業も残っています。この決定を採ったということで、IOCとして、そして組織委員会として、我々はこれから札幌市長、北海道知事と話をしなければいけません。森会長と私と一緒にそれをできればと思います。

私から、再び皆様の協力を御礼を申し上げます。繰り返しになりますが、知事が仰ったこと、会長も仰ったことですが、我々がチームとして一体感を持って進むことが大事であるという点を繰り返したいと思います。これまでもそういう関係性がありました。最初の6年間、我々の準備に関して、それが特徴であったと思います。だからこそ成功してきました。本当に良い準備が整っています。大会まで、開会式に至るまでの期間を自信をもってワクワクしながら迎えることができるでしょう。素晴らしい大会になると確信しています。それは必ずや日本、日本の国民に対しての信認になり、それは世界のアスリートにとって素晴らしい舞台になるということです。アスリートはベストを尽くすことができると思います。

本当に皆様の協力に感謝いたします。IOCを代表いたしまして、これからも協力が続くことを期待しております。本当にありがとうございました。